

福島県総合計画

資料5

アニュアルレポート2025

The Fukushima Prefecture Comprehensive Plan
Annual Report 2025



2025年(令和7年)7月15日に「ラムサール条約湿地」に登録された猪苗代湖

- 知事メッセージ P 1
- 1 ふくしまの今 P 2
 - (1) 復興・再生
 - ～ トピック① ふくしまのこの一年 ～ ▶ 復興・再生に向けた取組
風評払拭に向けた取組
 - (2) 地方創生
 - ～ トピック② ふくしまのこの一年 ～ ▶ 若者の意見を踏まえた人口減少対策
『感働！ふくしま』プロジェクト
地域の強みを生かした取組
 - (3) 横断的な課題
 - ～ トピック③ ふくしまのこの一年 ～ ▶ クマ被害防止対策
- 2 総合計画の進捗状況 P21
 - (1) 総合計画の評価
 - (2) 2026年度の主な取組
- 3 ふくしまのこれから P26
- 総合計画の概要 P31
 - (1) みんなで創り上げるふくしまの将来の姿
 - (2) SDGs視点の将来の姿
 - (3) 計画の推進に向けて
- 終わりに P35

東日本大震災と原発事故の発生から15年が経過しました。
この間、県民の皆さんの懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、
福島復興は着実に前進しています。
県民の皆さん、そして、福島に思いを寄せてくださる全ての皆さん、本当にありがとうございます。

一方で、避難地域の復興・再生を始め、廃炉と汚染水・処理水対策、風評と風化の問題、
さらには、急激に進む人口減少や度重なる自然災害への対応など、
本県はいまだ多くの困難を抱えています。

こうした困難に立ち向かい、挑戦を続けていく上で、私自身が大切にしている言葉があります。

「一步、一步、前へ」

これは、女性初のエベレスト登頂に成功した
三春町出身の世界的な登山家であり、
福島県民栄誉賞第一号の田部井淳子たべい じゅんこさんが遺された言葉です。

総合計画に描いた「ふくしまの将来の姿」を実現するためには、
県民の皆さんお一人お一人に、その姿を共感していただくとともに、
福島県が抱える課題を自分事として捉えていただきながら、
それぞれが「一步」を踏み出し、その「一步」を大きなうねりにしていくことが大切です。

今年は、現在の福島県が誕生してから150年となる大きな節目の年でもあります。
長い歴史の中で、先人たちから受け継がれてきた不屈の精神、
そして、郷土に対する熱い思いと誇り、「ふくしまプライド。」を胸に、
県民の皆さんが幸せを実感できる未来を創り上げるため、
これからも挑戦を続けていきます。

このアニュアルレポートを通して、復興・創生に向けた私たちの「歩み」と「現在地」を確かめながら、
笑顔と希望に満ちあふれる「ふくしまの豊かな未来」を共に創っていきましょう。

「一步、一步、前へ」



令和8年3月 福島県知事 内堀 雅雄

1 ふくしまの今

(1) 復興・再生

2011年3月11日(金)14時46分に三陸沖で発生した**東北地方太平洋沖地震**はマグニチュード9.0を記録し、**国内観測史上最大級の地震と津波の被害が発生しました(東日本大震災)**。

その後、**東京電力福島第一原子力発電所の事故**による原子力災害によって、周辺住民が避難を余儀なくされるなど、**本県はこれまで誰も経験したことのない大きな被害を受けました。**

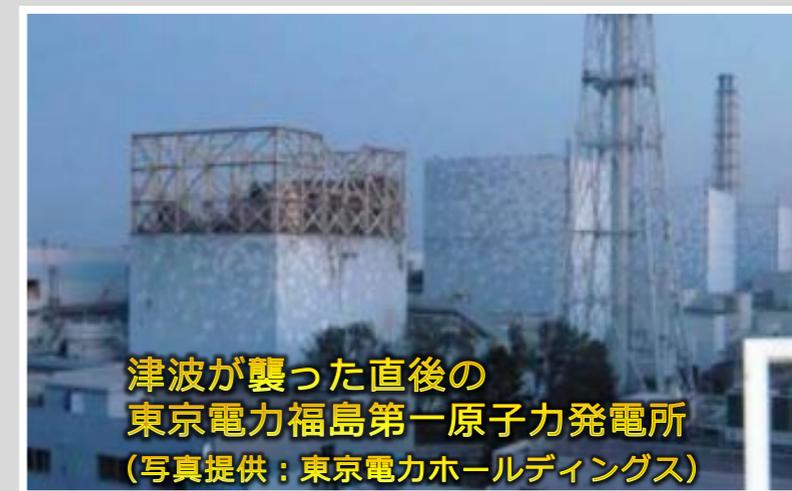
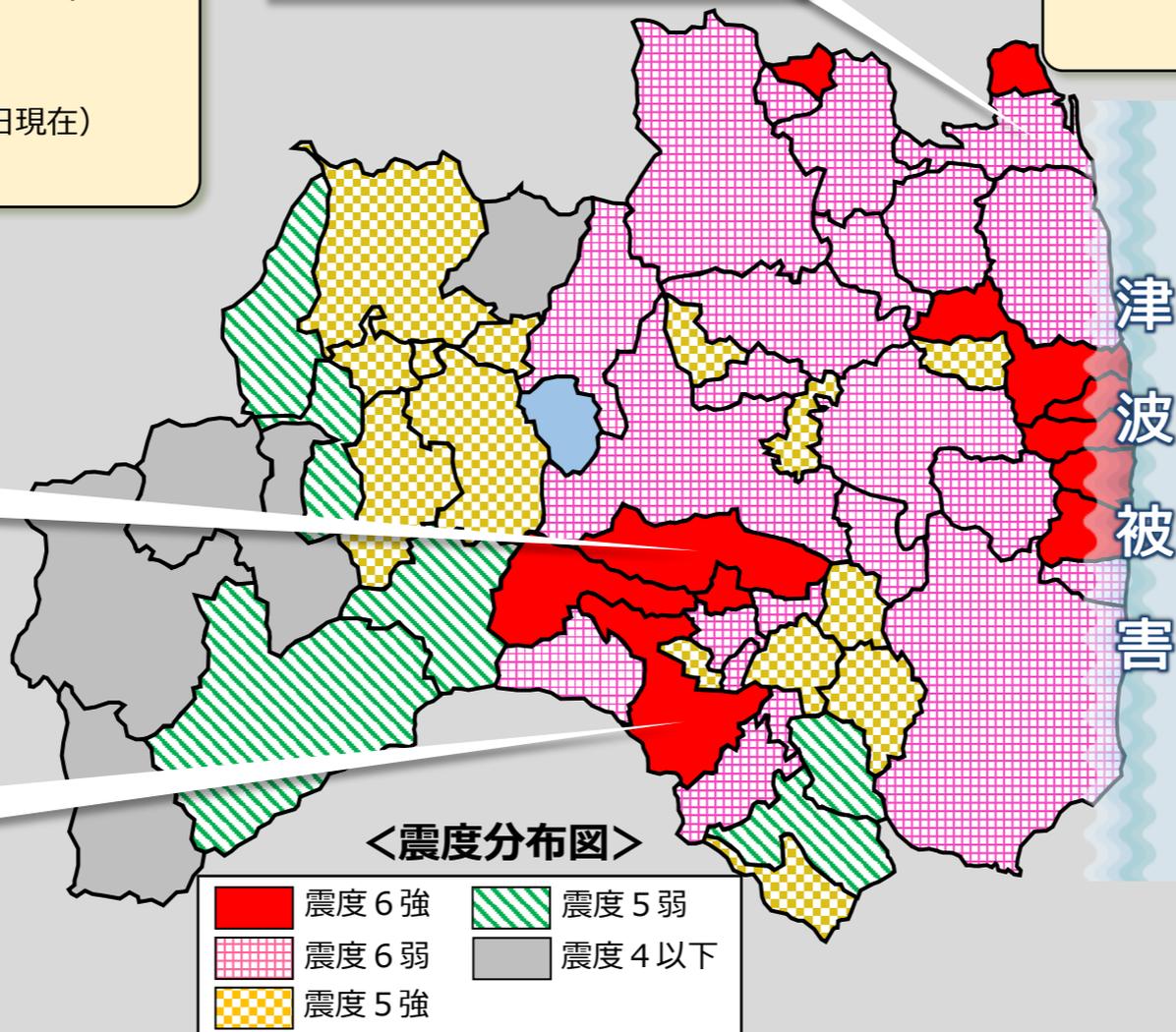
[東日本大震災の被害概要]

- ◆死者：4,181人
うち震災関連死：2,350人
(2026年2月1日現在)
- ◆家屋被害：全半壊102,955棟
(2026年2月1日現在)
- ◆公共施設被害：約6,294億円
(2012年3月23日現在)



[原子力災害の被害概要]

- ◆避難指示等区域：約1,600km² (県土の約12%)
(2011年4月22日時点)
- ◆避難者数：164,865人
(県内避難102,827人、
県外避難 62,038人)
(2012年5月時点)



東日本大震災と原発事故から15年が経過しましたが、県民の皆さんの懸命な努力と、国内外からの温かいご支援によって、**福島**の復興は着実に前進しています。

一方で、いまだ避難指示が継続している区域が存在しているとともに、約2万3千人の（2026年2月現在）の県民の皆さんが避難生活を続けておられ、避難者等の生活再建など**本県特有の課題**が山積しています。

① 避難地域と避難者数の推移

▶ 県土に占める避難指示等区域の面積は、震災当初の約12%から**2.2%**（2025年12月現在）に縮小しました。

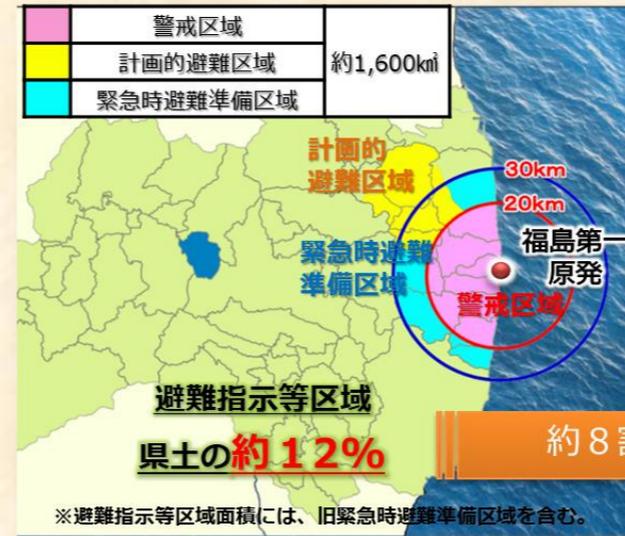
※ 帰還困難区域は、南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村の7市町村の一部に設定され、避難指示が継続しています。

▶ 避難者数は2012年5月の約16万人をピークに減少しているものの、**いまだ約2万3千人**が県内外で避難生活を余儀なくされています（2026年2月現在）。

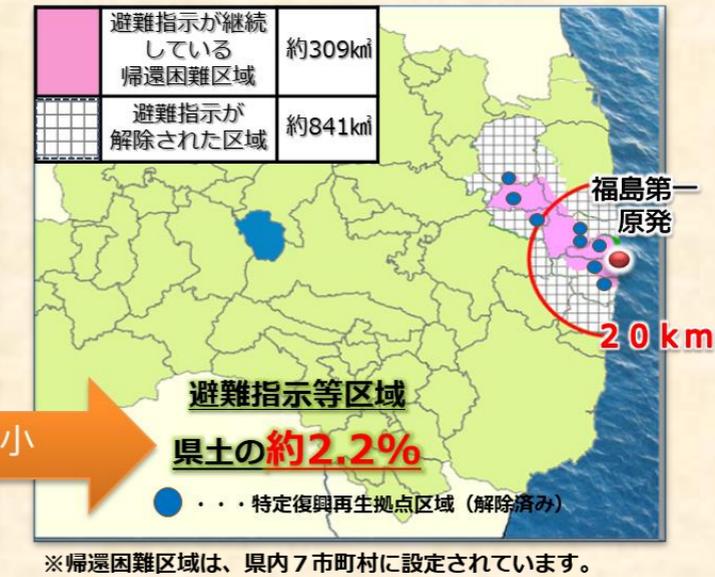
▶ 2026年度からの第3期復興・創生期間は、**帰還意向のある全ての住民が早期に帰還**できるよう、除染や生活環境の整備等に引き続き取り組んでいきます。

避難指示等区域の変化

◆ 2011年4月22日時点



◆ 2026年3月25日現在



約8割縮小

② 避難者等の生活再建

▶ 避難指示等が解除された地域では、住宅や商業施設、医療・介護などの生活環境づくりに取り組んでいます。

◆ 公営住宅



◆ 商業施設



◆ 医療・介護施設



◆ 教育施設



③復興を支えるインフラ等の環境整備

- ▶東日本大震災に係る県の公共土木施設の災害復旧工事は**全て完了**しました（2026年3月現在）。
- ▶2025年8月の「小名浜道路（いわき市）」の開通により、**広域的な交流や物流の活性化が期待**されます。

小名浜道路（2025年8月7日開通）



④新産業の創出・地域産業の再生

- ▶復興理念（原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり）と再エネ推進ビジョンの下、**再生可能エネルギー先駆けの地**を目指し、様々な取組が進んでいます。
- ▶東日本大震災・原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、**福島イノベーション・コースト構想**では6つの重点分野の拠点整備を含めた**主要プロジェクトの具体化**が進んでいます。

また、本構想を更に発展させ、福島に立地している研究施設等の取組に横串を刺す司令塔（中核的な拠点）として、国が2023年4月1日に**福島国際研究教育機構（F-REI、エフレイ）**を設立しました。

再生可能エネルギー推進の取組

研究拠点 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 郡山市	小水力 信夫山・遠藤ヶ滝・ 大玉第一小水力発電所 大玉村	太陽光 ペロブスカイト太陽電池の先行設置 檜葉町 福島市 会津若松市
バイオマス グリーン発電会津 木質バイオマス発電所 会津若松市	地熱 土湯温泉16号 源泉バイナリー発電所 福島市	風力 郡山布引高原風力発電所 郡山市

福島イノベーション・コースト構想の6つの重点分野

I 廃炉 国内外の英知を結集した技術開発	II ロボット・ドローン 福島ロボットテストフィールドを 中核にロボット産業を集積	III エネルギー・環境・リサイクル 先進的な再生可能エネルギー・ リサイクル技術の確立
IV 農林水産業 ICTやロボット技術等を活用した 農林水産業の再生	V 医療関連 技術開発支援を通じ医療関連産業の 集積を促進	VI 航空宇宙 次世代航空モビリティ、ロケット の開発や関連企業の競争力強化

⑤東京電力福島第一原子力発電所と第二原子力発電所の廃炉に向けた取組

- ▶ 廃炉に向けた取組が、県民や国民の理解の下、中長期ロードマップに基づき、安全かつ着実に進められることが福島復興の大前提です。長期にわたる取組の進捗状況や今後の作業等について、正確な情報を県民目線で分かりやすく発信し続けていく必要があります。
- ▶ 原発構内に保管されているALPS処理水の海洋放出を安全かつ確実に実行するとともに、科学的な事実に基づく情報を発信するなど、国内外の理解醸成に向けた取組が必要です。
- ▶ 原発の使用済燃料や燃料デブリを含む放射性廃棄物については、原子力政策を推進してきた国の責任において、保管方法や県外での適切な処分方法の議論を進める必要があります。
- ▶ 廃炉作業は長期にわたる前例のない困難な取組です。国及び東京電力の責任の下、安全を最優先に、着実に廃炉作業を前に進め、中間貯蔵開始後30年以内（2045年3月まで）の除去土壌等の県外最終処分が必ず実現されなければなりません。

廃炉までの道のり

2011年3月11日 東日本大震災・福島第一原発事故発生



水素爆発を起こした直後の3号機



2012年4月	福島第一原発1～4号機の廃炉決定
2014年1月	福島第一原発5, 6号機の廃炉決定
2019年9月	福島第二原発1～4号機の廃炉決定 (県内原発の全基廃炉が決定)



現在の3号機

今後の主な予定

- 2026年度内 2号機 ロボットアームによる内部調査・燃料デブリの試験的取り出し
- 2028年度まで 汚染水発生量を1日あたり約50～70m³に抑制
- 2028年度内 がれき等の屋外一時保管の解消
- 2031年内 1～6号機の使用済燃料プールからの燃料取り出し完了

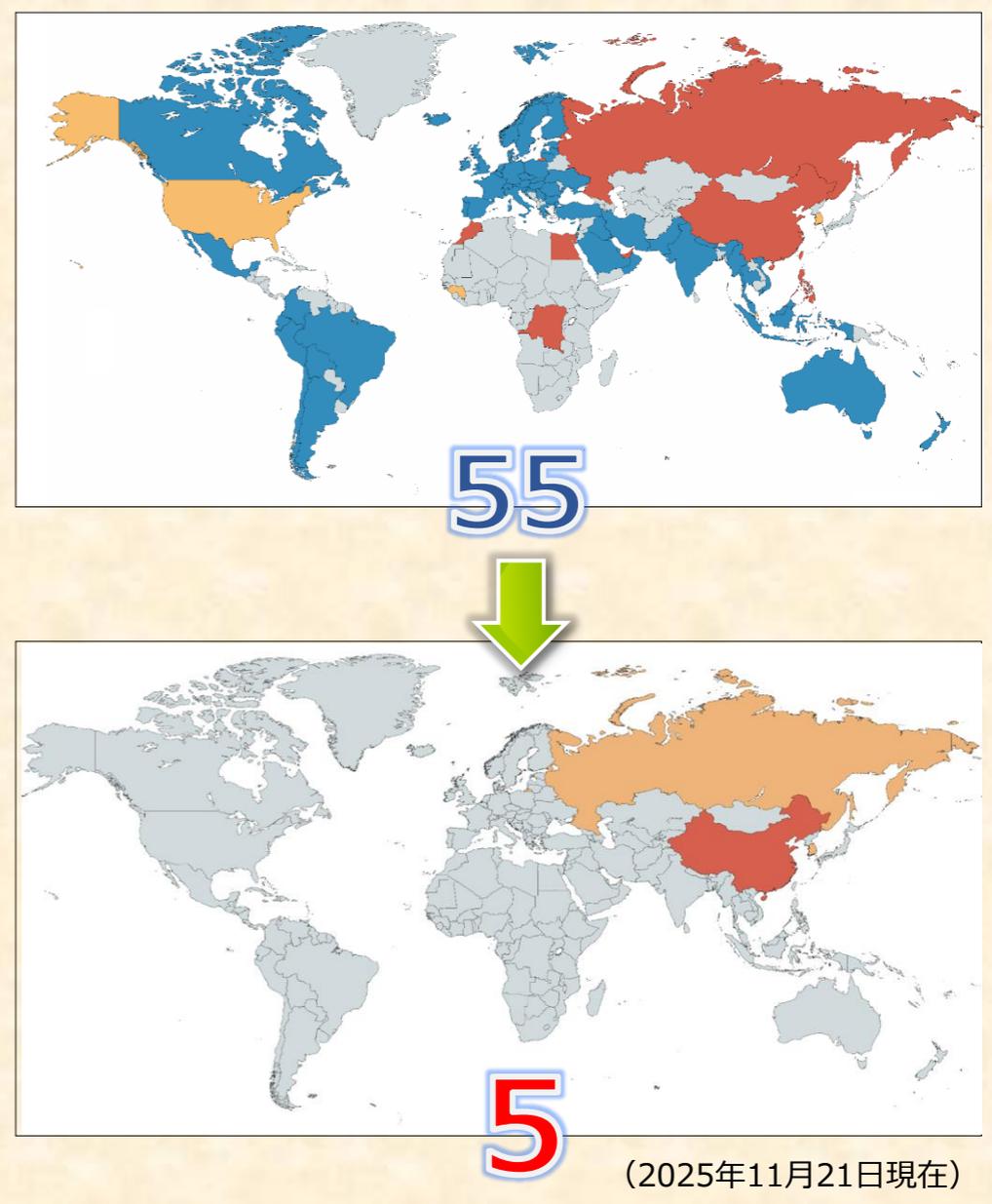


第一原発：30～40年後（2041年～2051年頃）に廃炉完了予定
第二原発：44年後（2065年頃）に廃炉完了予定

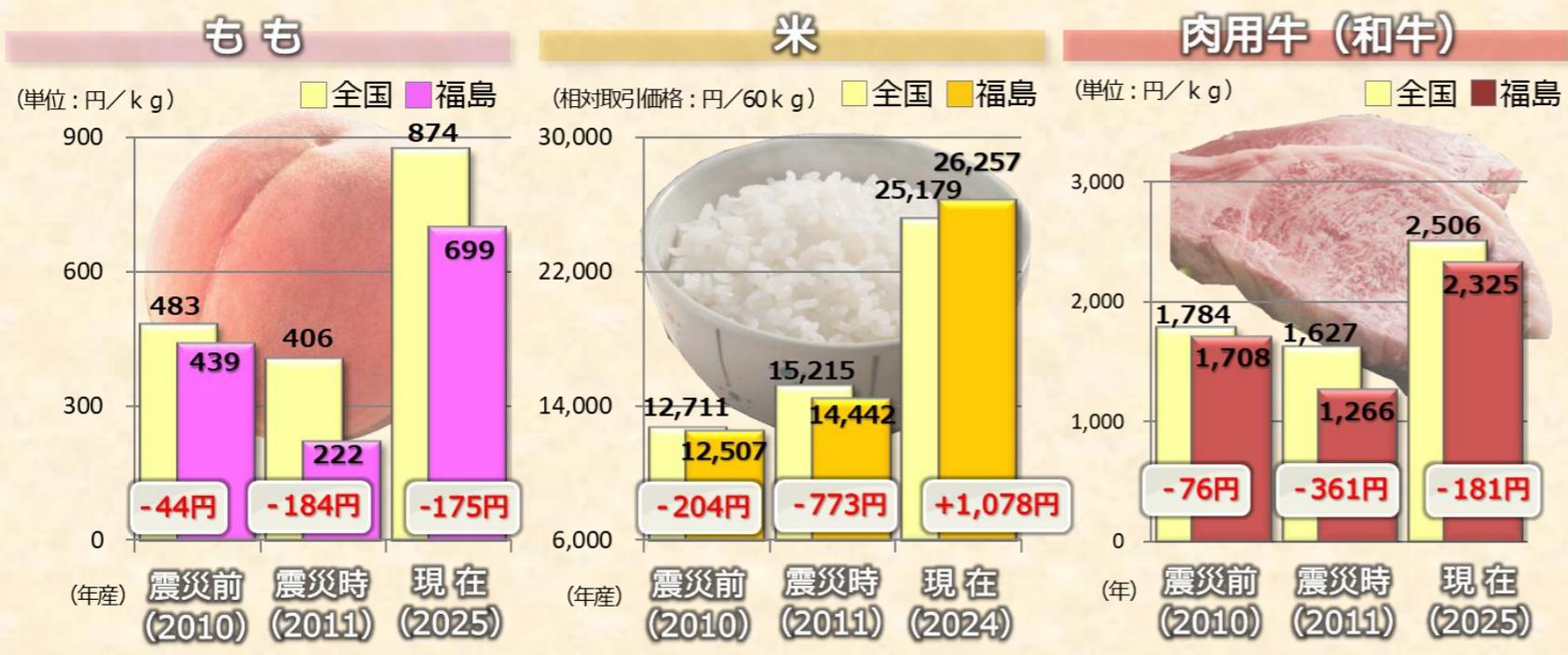
⑥風評払拭・風化防止対策の強化

- ▶ 輸入規制を行っている国・地域のは、原発事故直後の55から5まで減少しました（2025年11月現在）。
農産物の輸出量は増加しているものの、県産品と全国平均との価格差が震災前の水準に戻らないまま固定化している品目もあります。
- ▶ 外国人延べ宿泊者数は震災前よりも大きく伸びていますが、全国と比較すると本県の伸び率は低い状況にあります。
- ▶ これまでの風評・風化対策の成果は着実に現れている一方で、**現在も根強い風評が残っています。**
加えて、震災から15年が経過し、**風化の傾向が年々進行**しています。

輸入規制を行っている国・地域の数



主な農産物価格の推移と全国との価格差



福島県産食品の**広い品目**で輸入停止している国・地域 (12→3) 中国、香港、マカオ

福島県産食品の**一部**を輸入停止している国・地域 (4→2) 韓国、ロシア

検査証明書の添付等により食品の輸入を認めている国・地域 (39→0)

復興・再生に向けた取組

第3期復興・創生期間以降における復興の更なる加速化に向けた国への提案・要望



これまでの本県の要望を踏まえた形で、第2期を大きく上回る財源が確保されるとともに、国の令和8年度予算案や、福島特措法に基づく課税の特例措置の延長・拡充案が閣議決定されました。

原発の廃炉に向けた取組

今、知りたい、ふくしまのこと。

福島第一原子力発電所の廃炉に向けたプロセス

廃炉を知る

12月号 Vol.34
発行/福島県原子力安全対策課
福島県郡山市本町2-16 北庁舎3階
TEL.024-521-8054

https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025c/ 福島県原子力安全対策課 検索

「廃炉を知る」バックナンバーもご覧ください

見れば、もっと分かる「ALPS処理水の海洋放出に関する情報」

いざという時、役立つ「原子力災害に備える情報サイト」

福島県は廃炉に向けた取組を厳しく監視しています。

特集 福島第一原子力発電所で発生した廃棄物に対してどんな対策を行っているの？

福島第一原子力発電所では、汚染されたガレキ等や廃炉作業に伴い発生した廃棄物について、表面線量率に応じて遮へいや飛散抑制対策を講ずることにより、発電所構内で一時保管を実施してきました。現在は、より安全で安定的な保管を目指し、屋外で一時保管をしている廃棄物について、保管場所を建屋内へ移行する作業が進められています。

また、国が廃炉の目標工程等を定めた「中長期ロードマップ」において、固体廃棄物の保管管理について、「2028年度内までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除くすべての固体廃棄物(伐採木、ガレキ類、汚染土、使用済保護衣等)の屋外での保管を解消し、作業員の被ばく等のリスク低減を図る。」ことを目標工程としており、東京電力により、焼却・減容・管理保管に必要な施設や設備の整備が進められています。

福島第一原子力発電所 固体廃棄物の分類について

福島第一原子力発電所の固体廃棄物は、大きくは「ガレキ等」「水処理二次廃棄物」「放射性固体廃棄物」に分類され、発電所構内に保管されています。

ここがポイント!
保管後の再利用・処分に関する具体的な方針・計画は現在未定ですが、発生した廃棄物は、再利用・処分方法が決定するまで東京電力が責任を持って保管・管理を行うこととしています。

固体廃棄物

- ガレキ等**
 - ガレキ類**
地震、津波、水素爆発等により発生したガレキ、放射性物質によって汚染された資機材や除染を目的に回収する土壌などのこと。
 - 伐採木**
整地等で伐採した木。火災の発生リスクや線量の観点より、幹・根と枝・葉に分けて保管している。
 - 使用済保護衣等**
カバーオール、マスク、靴下等の可燃物や、ゴム手袋、破損したヘルメットや長靴等の難燃物。
- 水処理二次廃棄物**
汚染水の処理過程で発生する使用済の吸着材やフィルタ、放射性物質を含んだ泥状の廃棄物など。
一時保管施設、タンク等で保管
- 放射性固体廃棄物**
震災前から福島第一原子力発電所に保管されていたもの及び焼却灰等。
固体廃棄物貯蔵庫

福島第一原発では、使用済燃料の取り出しや、燃料デブリの本格的な取り出しに向けた取組などが進められています。

県では、今後も、廃炉の状況や、県の安全監視の取組等を県民に分かりやすく情報発信していきます。

<情報発信の取組例>

- 広報紙「廃炉を知る」の発行
- 県HPや情報誌への掲載

復興・再生に向けた取組

生活環境の整備の取組



避難指示解除の進展等による帰還者や移住者の増加に伴い、避難地域において生活環境の整備が進んでいます。

生業の再生に向けた取組



高い技術力を備えた農業の担い手育成のため、新たにスマート農業の研修等を行う施設の供用を開始しました。

風評払拭に向けた取組

全国新酒鑑評会で「**ふくしまの酒**」が**日本一**を獲得！



▶ 「ふくしまの酒」は令和6酒造年度
全国新酒鑑評会で3年ぶりに
金賞受賞数日本一を奪還しました！

県内には50を超える蔵元があり、
地域ごとに異なる味わいと香りを
楽しめるのが大きな魅力です。

ふくしまには日本酒以外にも**美味しいもの**がまだまだいっぱい！



米



肉



常磐もの

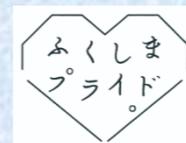


野菜



果物

▶ 風評払拭、県産品のブランド力向上、販売を促進するため、農産物を始めとする県産品、観光サービスなど、本県で生まれ、つくられ、その価値を誇るものを「**ふくしまプライド。**」として国内外に発信しています。



<ふくしまプライド。公式サイト>
<https://fukushima-pride.com/>



1 ふくしまの今

(2) 地方創生

福島県の人口は、2025年現在で約172万人となり、1998年をピークに減少が続いています。人口が減少することによって、学校や地域コミュニティの維持が難しくなったり、医療・介護などの社会保障や、様々な分野で従来のサービスや負担の水準維持が困難となるおそれがあるため、新たな福島県人口ビジョン及びふくしま創生総合戦略に基づきながら、官民共創による人口減少対策を進めています。

①福島県の総人口の推移

▶自然動態と社会動態のいずれも減少傾向が続いています。

<自然動態>

- ・2024年の出生数は過去最少の8,216人
- ・過去最大となる19,121人の自然減

<社会動態>

- ・2024年は6,683人の社会減で全国ワースト5位

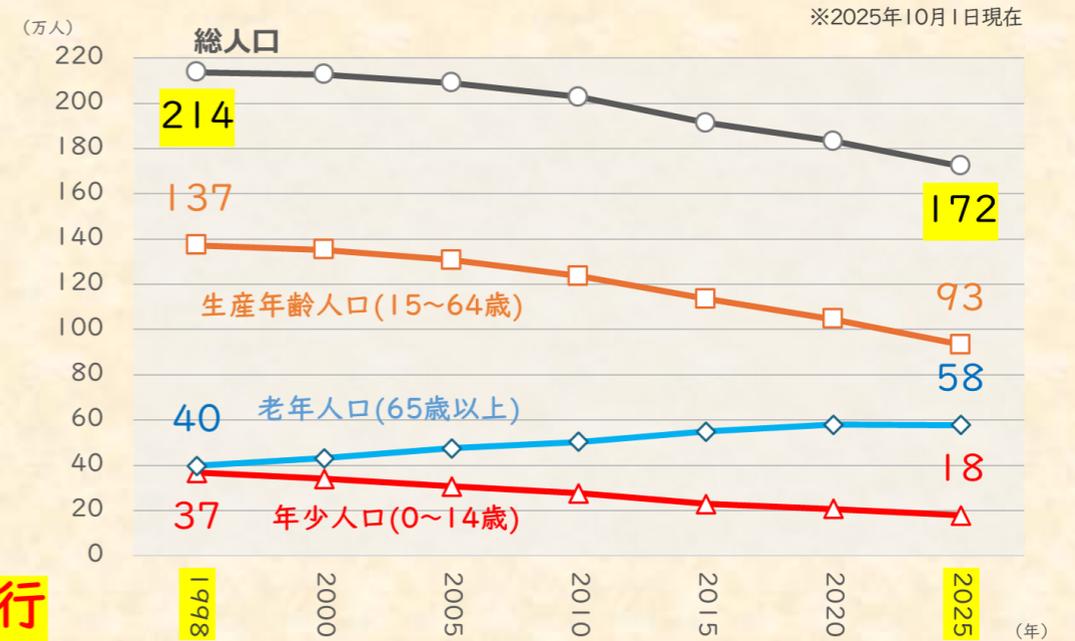
▶進学期・就職期にあたる20~24歳の若者層の転出が顕著であり、特に女性は男性の1.2倍の転出超過となっています。

▶県内若者層の男女比の不均衡は、出会いの減少、ひいては婚姻件数の減少、出生数減少にもつながると考えられ、社会動態と自然動態が相互に影響しながら人口減少が加速していることが示唆されています。

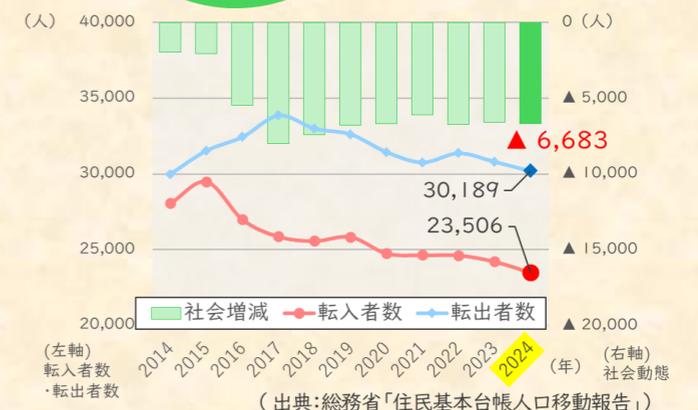
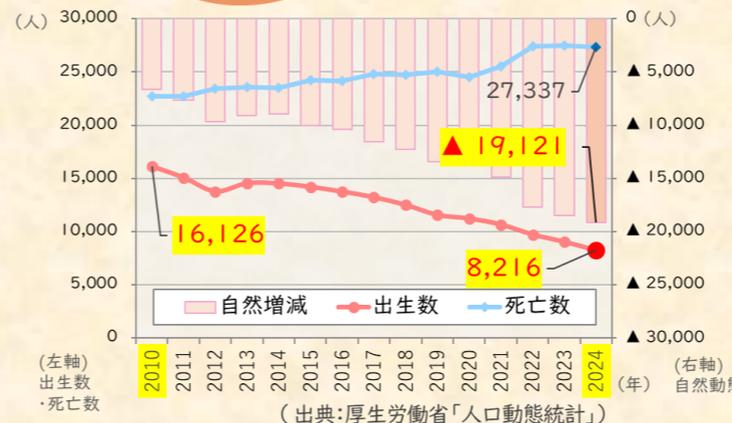


生産年齢は約2/3
老年人口は約1.5倍
年少人口は半減

少子高齢化の進行



(出典:総務省「国勢調査」、1998年・2025年は福島県統計課「福島県の推計人口(福島県現住人口調査)」)



20~34歳の未婚男女比の不均衡

※未婚女性の人口を1とした場合の未婚男性の比率(2020年)

順位	都道府県	比率
1位	福島県	1.35
2位	茨城県	1.34
3位	栃木県	1.32
4位	富山県	1.32
5位	群馬県	1.30
6位	静岡県	1.29
7位	福井県	1.28
8位	山形県	1.27
9位	山梨県	1.27
10位	長野県	1.27
-	全国	1.14
43位	東京都	1.03

(出典:総務省「国勢調査」2020年)

女性の転出超過数ワーストランキング

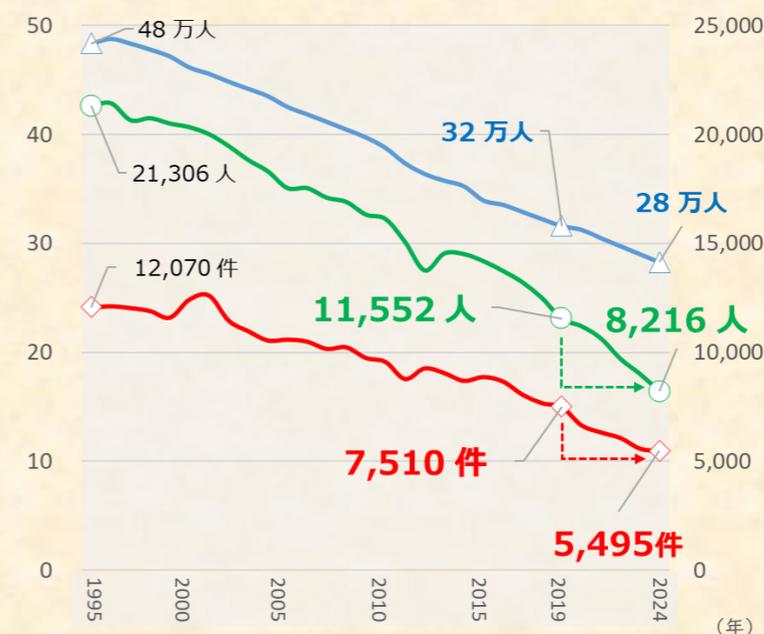
5年(2020~2024年)累計

順位	都道府県	女性の転出超過数
1位	広島県	-22,645
2位	福島県	-17,966
3位	長崎県	-16,696
4位	新潟県	-16,403
5位	北海道	-16,086
6位	静岡県	-14,684
7位	青森県	-13,992
8位	岐阜県	-13,712
9位	三重県	-12,760
10位	岩手県	-12,745
⋮	⋮	
47位	東京都	130,821

(出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」)

15~49歳女性人口・婚姻件数・出生数の推移

(左軸)15~49歳女性人口【人】 (右軸)婚姻件数【件】 出生数【人】



出生数
28.9%減
(2019年→2024年)
全国ワースト4位

婚姻件数
26.8%減
(2019年→2024年)
全国ワースト7位

(出典:厚生労働省「人口動態調査」
福島県統計課「福島県現住人口調査年報」)

②福島県人口ビジョン

▶人口の自然減と社会減への対策を両面で進め、2040年に福島県総人口150万人程度の維持を目指します。



③人口減少への適応の必要性

▶人口減少が続く中でも、社会を機能させ、魅力ある地域となるため、官民一体で取組を進めます。

- 人口目標が達成されたとしても、今後も人口減少は長期間にわたって続いています。
- 自然減対策と社会減対策を両輪として、人口減少のスピードを緩和しながら、人手不足が見込まれる教育、医療、産業など様々な分野においてAI導入等のデジタル技術の活用による業務効率化・生産性向上、地域資源を活用した高付加価値型の産業・事業の創出など、人口規模が縮小する中でも経済が成長し、社会を機能させていくための取組をあらゆる主体が連携しながら進めていく必要があります。

④県内7つの地域における地方創生

本県は、全国第3位の広大な県土や、首都圏に隣接する地理的優位性のほか、多様な気候風土、伝統文化、歴史などが息づいており、それぞれの**地域特性**をいかしながら、県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわきの**7つの地域**で地域づくりを推進しています。



会津地域

■会津地域を支える担い手の育成・確保と魅力ある地域づくり
 ■誰もが暮らしやすい会津地域の生活環境づくり
 ■新たな時代を拓く会津地域ならではの産業づくり
 ■後世に残すべき会津の宝を守りいかす取組

相双地域

■帰還促進と移住・定住の促進に向けた取組
 ■持続可能な産業の再生と創出及び関連インフラの整備
 ■地域の特性をいかした農林水産業と過疎・中山間地域の再生
 ■時代の潮流を踏まえた生活基盤の構築

南会津地域

■地域の特性をいかした産業の振興
 ■地域資源を活用した交流・関係人口の拡大と移住・定住の促進
 ■社会生活基盤の維持・整備による安全・安心な暮らしの確保
 ■豊かな自然環境や伝統文化など地域の宝の保全・継承

いわき地域

■技術と人材をいかした産業の振興
 ■多様な地域資源を活用した地域間連携による関係・交流人口の拡大
 ■持続可能な地域づくりに向けた幅広い世代と多様な人材、団体、企業等の活躍の場の創出
 ■震災と復興の経験をいかした安全で安心に暮らせる生活基盤の充実

県北地域

■誰もが安心していきいきと暮らせる環境づくり
 ■多彩な交流を通じた地域の活性化
 ■地域経済を支える産業の振興、人材の育成・確保
 ■災害に強く、持続可能な生活を支える基盤の整備

県中地域

■災害の克服、安全で安心に暮らせる地域社会の形成
 ■こおりやま広域圏の広域連携による多彩な地域資源を活用した交流人口拡大、関係人口の創出、移住・定住の推進
 ■新たな未来を創り、地域経済をけん引する産業の創出・集積、高度産業人材等の育成・確保
 ■地域に対する誇りと愛着を育む魅力あふれる地域づくりと生活基盤の充実、担い手の育成
 ■経済・社会・環境のバランスが取れた持続可能な発展を成し遂げる地域社会の形成

県南地域

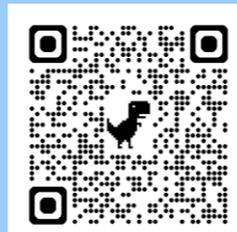
■地域の経済をけん引する活力ある産業の振興
 ■地域づくりを支える担い手の育成や多様な人々を受け入れるための場づくり
 ■地域の魅力をいかした交流の促進と広域連携による交流人口の拡大
 ■人々が安全・安心に暮らし続けることができるまちづくり

若者の意見を踏まえた人口減少対策

ふくしま共創チームの活動が始まりました

- ▶2025年7月16日、県では、人口減少への危機感を共有し、オール福島で「連携・共創」し人口減少対策に取り組むため、あらゆる主体の連携基盤として「ふくしま共創チーム」を設立しました。
- ▶9月から県内3地域(浜通り・中通り・会津)で、学生や企業・団体、市町村で構成する「ワーキングチーム」の活動を実施。企業訪問やワークショップを通じて、「若者の視点」で本県の人口減少対策に必要なことを議論していただきました。
- ▶2026年2月に開催した活動報告会では、学生の皆さんがワーキングチームの議論を踏まえた意見を発表しました。
- ▶県では、チームの意見を積極的に事業に取り入れています。今後もチームの輪を広げ、若者の意見を大切にしながら、ふくしまの未来をあらゆる主体の皆さんと共に考え、挑戦していきます。

2025年度の活動内容や活動報告会の詳細はこちら



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/kanminnrenkeikyousou100.html>



普段見られない
他社の取組や
組織としての考え方が
議論のヒントに！



働きたい
住み続けたい福島に
していくために
大切なことは？



若者の意見を踏まえた人口減少対策

ワーキングチームの議論を踏まえた意見・参加した学生の感想

意見

進学や就職で県外に流出することを無理に止めるのではなく、「人の流れを循環させる」という視点が重要だと考えました。県外からも地元と継続的に関われるよう、例えば、Uターンした若者のロールモデルを積極的に紹介し、「戻る」という選択肢をより身近なものにすることが必要です。

さらに、若者が安心して挑戦でき、地域全体で応援する環境を整えることで、ふくしまはより魅力的で選ばれる地域になると思います。

浜通り(福島高专)



参加した学生の感想

企業訪問では地域で挑戦を続ける方々の姿に触れることができ、ワークショップでは多様な立場の方々と意見を交わし、価値観や考え方の違いから多くの気づきを得ることができました。

一年間のワーキングチーム活動を通して、福島の「しごと、ひと・暮らし・人の流れ」を一体的に捉える視点の重要性を実感するとともに、地域の可能性や課題を自分自身の問題として考えるようになりました。



福島高专
小松 美月さん

「未来を描く、もっとできる福島」を目標に、3つの視点から考えました。

「制度面」では、制度を実際に使いやすくするために、管理職が率先して利用したり、業務の分担を見直したりして、心理的なハードルを下げる必要があると考えました。

「挑戦」では、個人任せにせず組織として挑戦を評価する仕組みや外部との連携で、成長を実感できる環境を整えることが大切です。

「地域愛着」では、幼少期から大学まで地域と関わる機会を増やし、地元で働く将来像を描けるようにすることで、安心して働き続けられる地域を目指します。

中通り(福島大学)



ワークショップを通して、福島で働いて生活する将来像を初めて具体的に思い描くことができました。福島には、人を大切にする働き方を実践している企業・団体が多く、働きながら成長を続けられると感じました。

また、福島は課題の多い地域というよりも、関わる人の行動によってより良くしていける可能性を持つ地域だと感じました。

制度を整えるだけではなく、世代や立場を越えて意見を共有し、互いに理解し合い、誰も置いていかない形で進めていくことが大切です。今後も、この地域の未来づくりに主体的に関わっていきます。



福島大学
三嶋 恵太郎さん

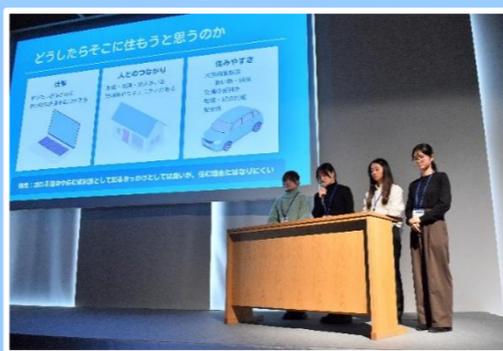
「仕事」「人とのつながり」「住みやすさ」の3つの視点が居住地を決める大きな理由になると考えました。

「仕事」では、地域や学生と企業が関わるイベントを増やし、企業を身近に感じることで、そこに働きたいという想いが生まれます。

「人とのつながり」では、スポーツや趣味のサークルなど、地域に根ざしたコミュニティを活発にできればそこに居場所ができ、地域愛着が生まれます。

「住みやすさ」では、特に、会津は車を持ちやすい環境整備や、雪で止まらないインフラの整備、夕方以降の出歩きやすさが向上できれば若者も気軽に外出できるようになります。

会津(会津大学)



福島で働くことにした理由として「家族」を挙げる方が思ったよりも多く、大切な人がいる場所に戻ってきやすい地域にすることが重要だということに身染みて感じました。

今回の活動で、学生としての意見を発信することができてうれしかったです。また、県の政策や県内企業についてより興味を持たため、今後も県政の動向を調べたり、企業と学生と一緒にイベントを開催したりして、福島をより良い地域にしていきたいです。



会津大学
北島 里紗さん

『感動！ふくしま』プロジェクト

県内就職を促進するため、県内企業の魅力や福島で働く魅力を若者に発信するなど、様々な取組を進めています

ふくしま企業情報の発信



ものづくり産業人材の確保



未来の産業人材確保のための体験プログラム



若者の県内定着・還流の促進



地域の強みを生かした取組

7 地方振興局が各地域の課題を踏まえ、その地域ならではの強みを生かし、市町村や地域の企業等と連携・共創しながら人口減少対策に取り組みました。

会津

人口減少対策事業



- ・管内企業の魅力等を高校生に発信。
- ・県外大学生等向けに企業とのオンライン交流イベントを開催。
- ・会津地域(南会津含む)での広域婚活イベントを開催。

会津3Fプロジェクト



- ・旅行商品(広域観光コース)を造成・販売。
- ・八十里越開通を契機としたPRイベントを新潟県等と連携して実施。

県北

若者のふくしま県北魅力体験事業



- ・県北地域の魅力を体験するツアーを県内大学生参画のもと構築・実施。
- ・体験ツアーの様子をSNSで継続的に発信。

県北で進める！働き方改革促進事業



- ・働き方改革促進セミナーを実施。
- ・企業に専門家を派遣し、長期間の伴走支援を実施。
- ・伴走支援結果の成果を発信。

県中

県中地域「しごと」×「移住・定住」推進事業

～県中地域を知って、体験して、県中地域に住んで、働いて。～



- ・高校教諭と企業の情報交換会を実施。
- ・高校生等が企業取材し、企業の魅力をSNSで発信。
- ・短期移住体験プログラムを提供。

企業×学生×地域ときめき出会い創出事業

～一人ひとり実現する県中地域へ「純樹果敢」～



- ・安積中高校生向けの企業見学会、大学生×社会人の交流授業を実施。
- ・固定的性別役割分担意識等への気付きを促すセミナーを実施。
- ・出会い創出ツアーを実施。

南会津

南会津「ワカモノ」ピッチ事業



- ・ピッチイベントを開催。若者や女性が考える人口減少対策等を採択し事業として実施(只見町若者交流会、餅つきイベント等)。

コネクト・みなみあいづ！プロジェクト



- ・観光をフックとした情報発信を実施。
- ・ふるさとワーキングホリデーで訪れた人々に地域の魅力を体験、地域住民と交流できるプログラムを提供。

南会ドローン中学校



- ・南会津地域で県がドローン寒冷地フィールドの旧檜沢中学校を活用したドローンスクールを運営し、操縦士や活用人材を育成。
- ・大人から子どもまでドローンに触れるイベントを開催。

県南

首都圏からの移住推進&就職先マッチング支援事業



- ・求人等の発信、マッチング支援を行う「しらかわ地域に特化した転職サイト」の運営に加え、観光客の動態を調査するとともに事業者のコンテンツ造成を支援。

しらかわ“ならでは”の「関わりびと・巡りびと」創出事業



- ・事業者と地方に興味のある方を結ぶプラットフォームの利活用を支援。
- ・観光客の動態を調査するとともに事業者のコンテンツ造成を支援。

相双

相双地域の地域資源再発見事業



- ・信長の野望出陣とのコラボ
- ・相馬野馬追と「信長の野望出陣」を連携したイベントを開催。
- ・「自転車やキャンピングカー」を活用した体験イベントを実施。
- ・あぶロマ街道沿線地域を紹介する特集企画を県内メディアで実施。

相双地域人材確保支援事業



- ・県内大学生向けに相双のしごとや暮らしを学ぶセミナーや体験プログラムを実施。
- ・管内高校生向けに企業の魅力を紹介する冊子を作成。管内の高校1、2年生に配布。

いわき

『若者・女性に伝わる』企業の魅力発見・発信事業



- ・Liko Iwakiのロゴマーク Liko Iwakiに掲載の動画
- ・(株)LOCOと連携し、いわきの企業の魅力や暮らし・仕事の魅力を発信。
- ・学生と企業の相互理解を深めるためカジュアルトークを実施。

“合宿”による若者と地域のつながりづくり推進事業



- ・大学生の自転車合宿やフラダンス・吹奏楽合宿を誘致。
- ・訪れた大学生等に地域団体や企業との交流の機会を提供。

1 ふくしまの今

(3) 横断的な課題

物価高騰や自然災害、デジタル変革など、様々な分野にまたがり、
多様な主体が連携しながら対応していく必要がある新たな課題が次々と発生しています。

①物価高騰

▶県民が安心して豊かな生活を送ることができるよう、
生活者や事業者の支援を進めていく必要があります。

<近年の主な状況>

●生活者への影響

・食料品価格、光熱費等の高騰

米をはじめとする食料品価格の高止まりや、エネルギー価格の変動による光熱費の負担増が家計を圧迫しており、特に低所得世帯や子育て世帯などへの影響が懸念されます。

・個人消費の冷え込み

実質賃金の伸び悩みにより個人消費が冷え込み、特に、小売業、飲食サービス業などへの影響が懸念されます。

●事業者への影響

・中小企業等の賃上げ

人手不足や物価高に伴う賃上げが求められる一方で、
中小企業をはじめ、事業者の賃上げ環境整備が急務となっています。

・エネルギー、資材等の価格高騰

電気・ガス、資材価格等の高騰が産業全体を直撃しており、
適切な価格転嫁の促進や省エネ設備の導入、
DX等による生産性向上など経営転換が求められています。

<物価高騰対策の一例>

福島県中小企業賃上げ緊急一時支援事業助成金

令和7年度の最低賃金改定に対応して
従業員の賃金を引き上げた
中小企業等を支援します

該当者1人につき
3万円を助成

申請受付期間
令和8年2月26日～5月31日16:00

「適切な価格転嫁」のお願い

福島県では、経済団体・労働団体・行政機関の10団体の連名により、「価格転嫁の円滑化による地域経済の活性化に向けた共同宣言」を发出し「適切な価格転嫁」の機運醸成に連携して取り組んでいます。

【共同宣言参加団体】

- 福島県商工会議所連合会
- 福島県商工会連合会
- 福島県中小企業団体中央会
- 福島県経営者協会連合会
- 福島県中小企業家同友会
- 日本労働組合総連合会福島県連合会
- 経済産業省東北経済産業局
- 厚生労働省福島労働局
- 国土交通省東北運輸局福島運輸支局
- 福島県

共同宣言の詳細はコチラ
<県HP>

共同宣言式の様子（令和5年9月1日）

中小企業が賃上げの原資を確保して、県内経済の成長と分配の好循環につなげるため、事業者の皆様には「適切な価格転嫁」への御理解・御協力をお願いします。

②頻発化・激甚化する自然災害への対応

▶人命の保護が最大限図られ、被害が最小化するように取り組む必要があります。

<近年の主な災害>

発生日	内容
2023年9月	県内で初めて「線状降水帯」が観測され、浜通りを中心に非常に激しい豪雨（わずか1日で9月の平均雨量に匹敵する大雨）
2025年2月	会津地方を中心とした豪雪
2025年7月	カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波警報
2025年12月	青森県東方沖地震により、初めて「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表



令和5年台風13号による内水氾濫
(2023年9月7日~9日)

③地球温暖化対策

▶省エネの徹底や、再エネの利用促進、熱中症対策など適応策の一層の推進が必要です。

- 近年、豪雨や猛暑などが頻発化し、健康や、経済・産業活動などの様々な場面で、気候変動による大きな影響を受けています。
- そのため、2023年6月に知事を代表とする「**ふくしまカーボンニュートラル実現会議**」を設立し、オール福島での取組を推進しています。
- 2024年10月には、「**福島県二〇五〇年カーボンニュートラルの実現に向けた気候変動対策の推進に関する条例**」を制定し、金融機関等と連携した県内企業の脱炭素化の推進や、若者と連携・共創した情報発信など様々な取組を進めています。
- また、熱中症対策の1つとして、猛暑の際に県民が休むことができる「**ふくしま涼み処**」を公共施設や民間施設の協力のもと2024年度から運用しています。



ふくしまカーボンニュートラル
実現会議設立総会



学生による海外での情報発信



ふくしま涼み処

④ デジタル変革（DX）の推進

▶人口減少に伴う人手不足等の対策として、行政と地域のDXに取り組んでいく必要があります。

●デジタル技術とデータを活用し、行政手続の利便性向上や地域課題の解決を進め、誰一人取り残さない安心な福島を実現し、教育・防災・医療・産業など幅広い分野でDXを推進し、県民の暮らしの質の向上を目指していきます。

<行政のDX>

行政の業務や手続きをデジタルで見直し、
早く・無駄のない行政サービスを目指していきます。

<地域のDX>

デジタルの力で、学び・仕事・健康・安全を支え、
暮らしやすい地域をつくっていきます。



【情報リテラシー向上事業】
小学校高学年向けプログラミング講座

⑤ 新興感染症等への対応

▶県民の生命及び健康を保護し、県民生活や社会経済に及ぼす影響が最小となるよう対策を講じていく必要があります。

●2019年12月末から世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、本県においても長期間にわたり県民の生命・健康や社会経済に大きな影響を及ぼしました。

●2023年5月に5類感染症に移行したものの、感染症危機への備えは引き続き必要です。このため、新型コロナウイルス感染症対応の経験と教訓を踏まえて改定した「福島県感染症予防計画」及び「福島県新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき、平時から医療提供体制及び危機対応体制の整備を進めていきます。

<医療機関との協定締結状況>

◇入院の確保病床数
921床（2025年10月1日現在）

◇発熱外来の確保機関数
689機関（2025年10月1日現在）

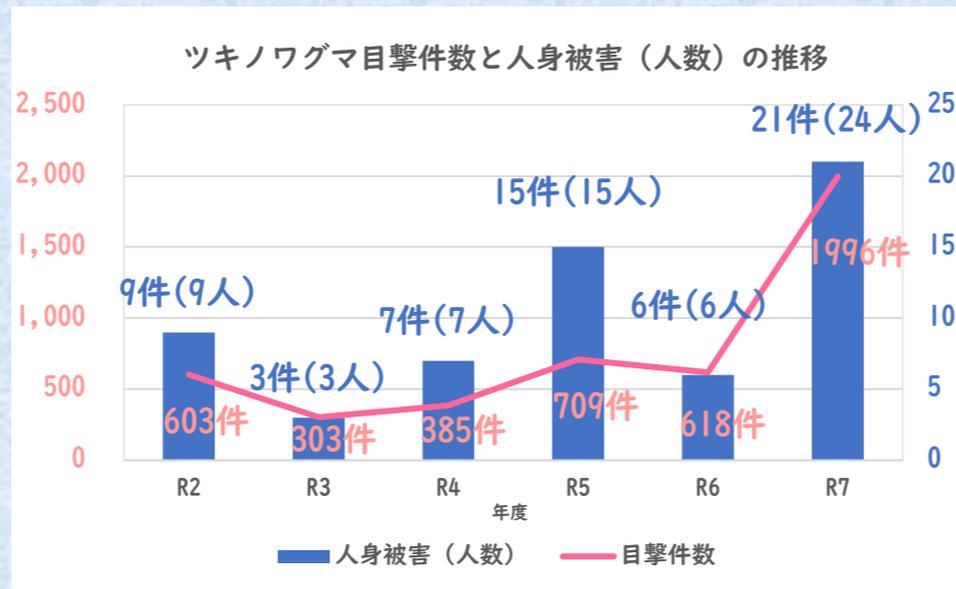
医療提供体制	大臣公表・知事による要請まで	流行初期 (知事要請～3か月)	流行初期以降 (3ヶ月～6か月)
入院体制 (病床確保)		+517床 (552床)	+369床 (921床)
	感染症病床 35床		
外来体制 (発熱外来)		544機関	+145機関 (689機関)

クマ被害防止対策

2025年度は全国的にクマの目撃が相次ぎ、本県においても、クマによる人身被害の多発、屋外活動の制限など、日常生活に大きな影響を与えました。

●クマの目撃件数・人身被害件数（2026年1月31日現在）

- ▶目撃件数 1,996件
- ▶人身被害 21件24人
(前年度比15件18人増)



●ツキノワグマ被害防止対策

- ▶目撃地点等におけるパトロールの強化
- ▶県管理河川の刈り払いや、柿の木などの誘引木の伐採
- ▶観光地での注意喚起看板の設置
- ▶農業生産現場における農作物の被害防止や捕獲の強化
- ▶クマ目撃マップの公表・周知 等

今年の秋はクマに注意!

ツキノワグマ出没警報 発令中(会津・中通り)

今年クマの目撃件数が過去最多となっていますが、さらにこの秋はブナ等の堅果類が不作であり、冬眠前のクマが餌を求めて人里近くまで出没する可能性が高いことから会津、中通り地域に「ツキノワグマ出没警報」を発令しました。
登山やキノコ採り、山や河川敷での作業などクマとの遭遇リスクが高まる時期のため、クマが出没している地域では複数人で行動する、必ずクマ鈴を携帯するなどクマに出会わないよう十分注意してください。

区域・期間 会津・中通り地域「ツキノワグマ出没警報」 令和7年9月11日～令和7年12月15日
※浜通り地域においても9月11日～12月15日まで「ツキノワグマ出没注意報」を発令中です。

**クマとの遭遇
多発ポイント**

登山や仕事での入山

キノコ採り

河川敷

林縁部や藪付近

納屋・畜舎

果樹周辺

農作業・草刈り

朝夕の散歩

クマに出会わないためにできること

- 目撃情報を調べましょう**
クマがどこにいるのかわかることが大切です。県警のポリスメールや自然保護課の目撃マップを活用しましょう。
クマの目撃マップはこちら↓
- クマ鈴やラジオなど音のするものを身につけて行動しましょう**
クマの生息している場所では、クマ鈴、ラジオなど音のするものを身につけ、クマに自分の存在を知らせましょう。藪や河川敷に入る際は、事前に花火を打つなど追い払いを行います。
各地方振興局でクマ鈴を貸出します
- 朝夕の登山や散歩、農作業を行う際は、複数人での行動、クマ鈴等の携帯を徹底しましょう**
朝夕はクマが最も活発に行動する時間帯です。朝夕の入山や農作業には十分注意しましょう。
- 屋外に生ゴミ・野菜・未収穫の果物・ペットフードを置かないようにしましょう**
クマは餌に対する執着が非常に強いです。一度人間の食べ物や生ゴミの味を覚えてしまうと、頻りに人里へ出没してしまうため、クマの食べ物になるものを置かないようにしましょう。また、畜舎や小屋に侵入し、餌を食べることもあるため、侵入されないよう対策しましょう。

福島県ホームページ

問い合わせ先 福島県自然保護課 024 (521) 7210

2 総合計画の進捗状況

(1) 総合計画の評価 《県民の取組の成果》

ひと分野

基本指標の達成状況

2023年度
22/63

2024年度
18/63



ふくしまに魅力を感じる人が増えて、
移住者数は過去最多を更新。
一方、健康指標などは横ばい傾向。
ひと分野の目標達成には、県民の皆さんの協力が
大切であり、情報発信に力を入れていきます。



ふくしま応援！
『ベコ太郎』

	代表的な指標	目標値	最新値	
政策1 全国に誇れる健康長寿県へ 若い世代から高齢者までライフステージに 応じた疾病予防 など4施策	歯の健康 (12歳でむし歯のない者の割合)	65.0%	66.9%	😊 毎日歯みがきががんばろう
	がん検診受診率 (胃がん) (他に、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの指標もあります)	60.0%	32.5%	😟 早期発見が大事 検診は必ず受けましょう
政策2 結婚・出産・子育ての希望を かなえる環境づくり 出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる 支援の充実 など3施策	男性の育児休業の取得率 (民間(事業所規模30人以上))	17.0%	43.5%	😊 イクメンが増えてます
	福島県で子育てを行いたいと回答した県 民の割合	72.6%	58.4%	😟 子育てをみんなで支えていこう
政策3 「福島ならではの」の教育の充実 「学びの変革」の推進と資質・能力の育成 など6施策	地元自治体等と共に課題解決に向けた学習 活動を実施した学校の割合 (高等学校)	80%	100%	😊 高校生が若者の視点でまちの 未来を考えます
	ふくしま学力調査の結果の経年比較により、 学力が伸びた児童生徒の割合 (中学校・国語)	100%	61.3%	😟 考える力が身につくと 世界が広がるよ
政策4 誰もがいきいきと暮らせる県づくり 多様な人材が共に生きる社会の形成 など4施策	民営事業所の管理職における女性の割合 (係長相当職以上の女性比率)	23.5%	20.3%	😟 働きやすい環境が大切です
	「多様性を理解した社会づくりが進んで いる」と回答した県民の割合	42.4%	28.3%	😟 みんなが暮らしやすい ふくしまがいいね
政策5 福島への新しい人の流れづくり ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大 など2施策	移住者数	3,214人	3,799人	😊 ふくしまが注目されています
	人口の社会増減	△4,184人	△6,849人	😟 ふくしまのいいところも 知ってほしい…

2 総合計画の進捗状況

暮らし分野

基本指標の達成状況

2023年度
30/60



2024年度
30/62



過疎・中山間地域の暮らしに関する指標は目標を達成しているものが多いものの、ごみの排出など、環境に関する指標は未達成が多い。
豊かな自然や美しい環境を保全し、活用しながら、住みやすく、安全・安心な県づくりを進めていきます。

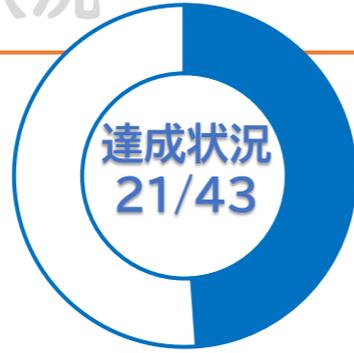


	代表的な指標	目標値	最新値	
政策1 東日本大震災・原子力災害からの復興・再生 複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生 など8施策	本県の震災・原発事故からの復興・再生が進んでいると回答した県民の割合（意識調査）	51.5%	54.3%	😊 まだまだ課題は多いけど復興は着実に進んでいます
	県産農産物価格の回復状況（もも） （他に米、牛肉の指標もあります）	98.79%	93.68%	😬 この美味しさをみんなに伝えたい！
政策2 災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり 災害に強い県土の形成 など7施策	土砂災害から保全される人家戸数	15,669戸	15,735戸	😊 日頃から防災意識を高めよう！
	犯罪発生件数 （刑法犯認知件数）	前年比減少を目指す （前年：8,003件）	8,844件	😬 犯罪を未然に防ぐには声掛けや気配りも大事です
政策3 安心の医療、介護・福祉提供体制の整備 質が高く切れ目のない医療提供体制の構築 など5施策	認知症サポーター数	240,000人	252,913人	😊 できる範囲の手助けでも助かります
	身近なところで、必要な医療を受けることができる地域に住んでいると回答した県民の割合（意識調査）	75.1%	69.4%	😬 身近なところで医療を受けられると安心だね
政策4 環境と調和・共生する県づくり 豊かな自然や美しい景観の保護・保全 など4施策	野生鳥獣による農作物の被害額	161,395千円	150,630千円	😊 地域・集落ぐるみの対策を進めていこう
	一般廃棄物の排出量（1人1日当たり） （2023年度は全国ワースト2位）	全国平均値以下 （2023全国平均：851g/日）	968g/日※	😬 捨てる前に一度考えてみよう
政策5 過疎・中山間地域の持続可能な発展 過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成 など3施策	地域おこし協力隊定着率	60.0%	61.0%	😊 定着支援が充実してきています
	自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合（意識調査）	89.0%	85.4%	😬 農村漁村に接する機会を増やしていくことが大切だね
政策6 ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり にぎわいと魅力あるまちづくりの推進 など5施策	プロスポーツチームのホーム公式戦平均入場者数	9,130人	9,244人	😊 みんなで県内5つのプロスポーツチーム（P26参照）を応援しよう！
	今住んでいる地域が住みやすいと回答した県民の割合（意識調査）	75.5%	69.1%	😬 もっと住みやすくなるように一緒に考えていこう

※が付いている指標の最新値は、2023年度（令和5年度）です。

2 総合計画の進捗状況

しごと分野



福島イノベーション・コースト構想に関連する指標や、観光に関する指標は好調。一方、産業を支える人材の確保・育成に関する指標は未達成のものが多い。誰もが安心して働ける雇用環境の整備や、産業を支える人材確保・育成の取組等を支援していきます。



基本指標の達成状況

2023年度 26/43 2024年度 21/43

	代表的な指標	目標値	最新値	
政策1 地域産業の持続的発展 地域の企業が主役となる、しなやかで力強い地域産業の育成・支援 など3施策	県産品輸出額	1,403百万円	1,585百万円	😊 福島の特産品は世界でも人気！
	開業率	4.4%	2.8%	😞 新しいチャレンジを応援してます
政策2 福島イノベーション・コースト構想の推進 福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業集積・新興 など4施策	メイドインふくしまロボットの件数	67件	69件	😊 ふくしまのロボットと暮らす未来が来るかも！？
	浜通り地域等での起業による事業化件数	31件	19件	😞 浜通り全域に新しい芽が広がってます
政策3 もうかる農林水産業の実現 農林水産業の多様な担い手の確保・育成 など5施策	県産農産物の輸出額	266百万円	476百万円	😊 この美味しさをもっと世界に広めよう
	新規就農者	370人	322人	😞 農業に興味を持ってくれる人を増やしたい
政策4 再生可能エネルギー先駆けの地の実現 再生可能エネルギー等の更なる導入拡大と利用促進 など3施策	再生可能エネルギー・水素関連産業の成約件数	183件	265件	😊 再エネ・水素社会の実現に向けて取り組んでいます
	再生可能エネルギー・水素関連研究実施件数	983件	927件	😞 新しい研究も後押ししてるよ
政策5 魅力を最大限いかした観光・交流の促進 ふくしまの地域資源の磨き上げ及び魅力発信による誘客の拡大 など4施策	外国人宿泊者数	200,000人泊	289,160人泊	😊 世界中の人が福島を訪れています
	県内宿泊者数	12,300千人	9,540千人	😞 まだまだ知らない福島の魅力があるかも！じっくり探してみよう
政策6 福島の産業を支える人材の確保・育成 県内経済を支える人材の確保・育成 など3施策	福島県次世代育成支援企業認証数	1,137件	1,260件	😊 素晴らしい企業がたくさんあるよ
	新規大学等卒業者の県内就職率	55.0%	48.1%	😞 若い人に福島の企業の魅力が伝わっていないのかも…
政策7 地域を結ぶ社会基盤の整備促進 基盤となる道路ネットワークの整備 など3施策	30分以内にインターチェンジにアクセスできる市町村数	51市町村	51市町村	😊 県内の移動が便利になっています
	携帯電話人口カバー率	99.99%	99.97%	😞 どこにいても携帯電話が繋がれば安心だね

(2) 今後の主な取組

総合計画審議会や地域懇談会における主な意見

- 県民の日常生活における健康づくり推進による生活習慣病対策の強化
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくりと適切な情報提供
- 幼少期からはじめる、福島に愛着・誇りを持つことができるキャリア教育や地域課題探究活動の充実
- 国籍等にかかわらず、あらゆる立場の県民が県政に関する情報を受け取りやすくするための環境づくり
- 県外転出の要因分析に基づく、若者や女性の定着・還流の促進 など

ひと分野

次頁へ

- 避難地域における帰還者と移住者の交流促進に向けた支援
- 県民の防災意識の向上等による地域防災力の強化
- 医療、介護・福祉分野の人材養成と定着への支援
- 有害鳥獣の捕獲体制の強化と捕獲人材の育成・確保
- 過疎・中山間地域における生活交通の利便性向上
- 生涯学習やスポーツ活動の機会充実と、その魅力を伝えるための情報発信 など

暮らし分野

次頁へ

- 省力化、生産性向上の支援及びDXの推進
- 企業への伴走支援の強化やサプライチェーンの構築支援、地域と連携した人材育成等による福島イノベーション・コースト構想の着実な推進
- 農林水産業の魅力・情報発信等による多様な担い手の確保
- 地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入拡大と地産地消の推進
- 特色ある地域資源を活用した観光コンテンツづくりと情報発信の強化
- 幼少期からの職業体験による県内で働くことへの興味の喚起や、地域への愛着形成の促進、若者や女性に選ばれる魅力的な働く場の確保
- 福島空港の2次アクセス対策による利活用促進 など

しごと分野

次頁へ



2026年度の主な取組

前頁より

ひと分野

新規

ずっと安心！産前産後サポート事業

遠方での出産や妊婦健診等の交通費等の助成や、助産師による相談支援、子育てサロンの実施など、妊娠から出産・産後まで一体的に支援します。



子育てサロン

新規

探究的な学び推進関連事業

(幼児・小中学生・高校生)

地域コーディネーターを配置し、学校と地域の連携を強化するとともに、探究学習の発表会等を通じて好事例の横展開を行うなど、全ての学校段階で探究的な学びを推進します。



ふくしま高校生社会貢献活動コンテストで探究の発表をするいわき光洋高校の生徒

前頁より

暮らし分野

一部新

避難地域への移住促進事業

戦略的な情報発信、移住希望者の呼び込みや定着のための受入体制強化の支援などに加え、移住者に対し支援金を給付し、移住に伴う一時的な費用負担等を軽減します。



地域住民と移住者の交流会

新規

防災行動計画促進事業

災害の種別ごとに各機関の防災行動を時系列で整理した防災タイムラインを策定・共有し、関係機関との連携を強化するとともに、迅速で適切な災害対応につなげます。



県・市町村・関係機関が参画するタイムライン部会

前頁より

しごと分野

新規

中小企業「賃金UP」応援事業

省力化機器・設備、ITツール等の導入経費を支援するとともに、企業の価格交渉力等向上に向けたセミナーや伴走支援等の実施により価格転嫁を促進し、企業の稼ぐ力の向上を支援します。



専門家派遣による支援

一部新

『感動！ふくしま』プロジェクト

(気づき・体験) (魅力ある職場づくり)

本県の将来を担う若者に対し、企業体験ツアー等で気づきと体験の場を提供するとともに、若者や女性に選ばれる魅力ある職場環境づくりを総合的に推進します。



小中学生向け工場見学

3 ふくしまのこれから

「県政150周年記念事業」の開催

＜県政150周年記念事業 特設サイト＞
<https://fukushima150th.jp/>



1876年(明治9年)年8月21日に、旧福島県、磐前(いわさき)県、若松県が合併し、ほぼ現在の福島県の形が誕生してから**県政150周年の節目**を迎えます。そこで、2026年は関係団体等と連携しながら、県内各地で県政150周年記念事業を展開し、これまでの本県の歩みを振り返りながら、県民の皆さんと一緒に福島「魅力」を広く発信していきます。

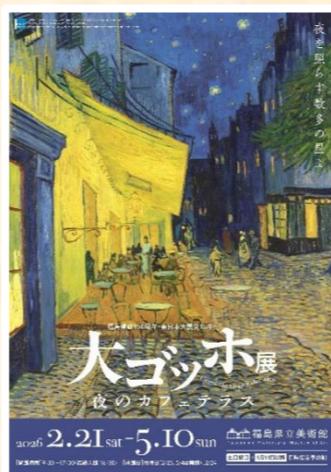


＜主催事業～主な特別企画～＞

県政150周年の冠事業として、大ゴッホ展やふくしまデスティネーションキャンペーンなどを展開。その他、150周年賞の創設、節目コラボ事業、150周年プレゼントや商品制作、情報発信やパネル展示等の各種取組を行っていきます。

● 「福島県政150周年・東日本大震災15年 大ゴッホ展 夜のカフェテラス」

- ・会期 2026年2月21日(土)～5月10日(日)
- ・会場 福島県立美術館
- ・展示作品 74点 (うちファン・ゴッホ作品57点)
- ・公式HP <https://www.minpo.jp/vangogh/>



● プロスポーツ地域活力創出事業 県内5つのプロスポーツチームによる「県政150周年記念冠マッチ」を開催予定

- ・福島ユナイテッドFC (サッカー)
- ・福島レッドホープス (野球)
- ・福島ファイヤーボンズ (バスケットボール)
- ・いわきFC (サッカー)
- ・福島デンソーエアリービーズ (バレーボール)



＜連携事業～官民ネットワーク～＞

県政150周年を広く発信していくため、記念事業の基本理念に共感し、協力いただける市町村、民間企業、各種団体等の皆さんと一緒に官民一体となって事業を展開していきます。

※官民ネットワーク参加状況：266団体 (2026年2月28日現在)



日本郵便株式会社
 福島中央郵便局 様
 「県政150周年ロゴマークを
 使用した特別日付印の記念押印」



福島県酒造組合 様
 「ふくしまDC・県政150周年
 オリジナルカップ酒」

福島県政150周年 福島県政150周年記念・官民ネットワーク募集！！

福島県は2026年に、県政150周年を迎えます。一緒に150周年をお祝い・盛り上げませんか？

県政150周年・官民ネットワークとは？

福島県は、令和8年(2026年)8月21日に県政150周年を迎えることから、令和8年1月1日から12月31日まで「県政150周年記念事業」を実施します。県政150周年記念事業を広く発信していくため、150周年を一緒にお祝い・盛り上げてくれる市町村・企業・団体の皆様に募集しています！官民ネットワークにご登録いただき、ぜひご協力をお願いします。

広報の協力	行事の協力
県政150周年に関する情報発信やロゴマークの掲載をお願いします。	県が主催する事業への出演、後援をお願いします。
事業・キャンペーン	その他、150周年に資する活動
主体的な事業やキャンペーンの実施をお願いします。	その他、150周年をお祝い・盛り上げていただける幅広い取り組みをお願いします。

▶登録申請はこちら！
 ①申請フォームよりお申込み <https://fukushima150th.jp/>
 ②必要事項を入力
 ③登録完了！

お問い合わせ先：福島県文化創造課 / TEL 104-621-6633
 E-mail: kansai150th@pref.fukushima.lg.jp

先人たちが、郷土の発展のために、様々な困難を乗り越え、積み重ねてきた150年の歴史を振り返り、それらを礎とした新たな時代の福島県の創造に挑戦していきます。

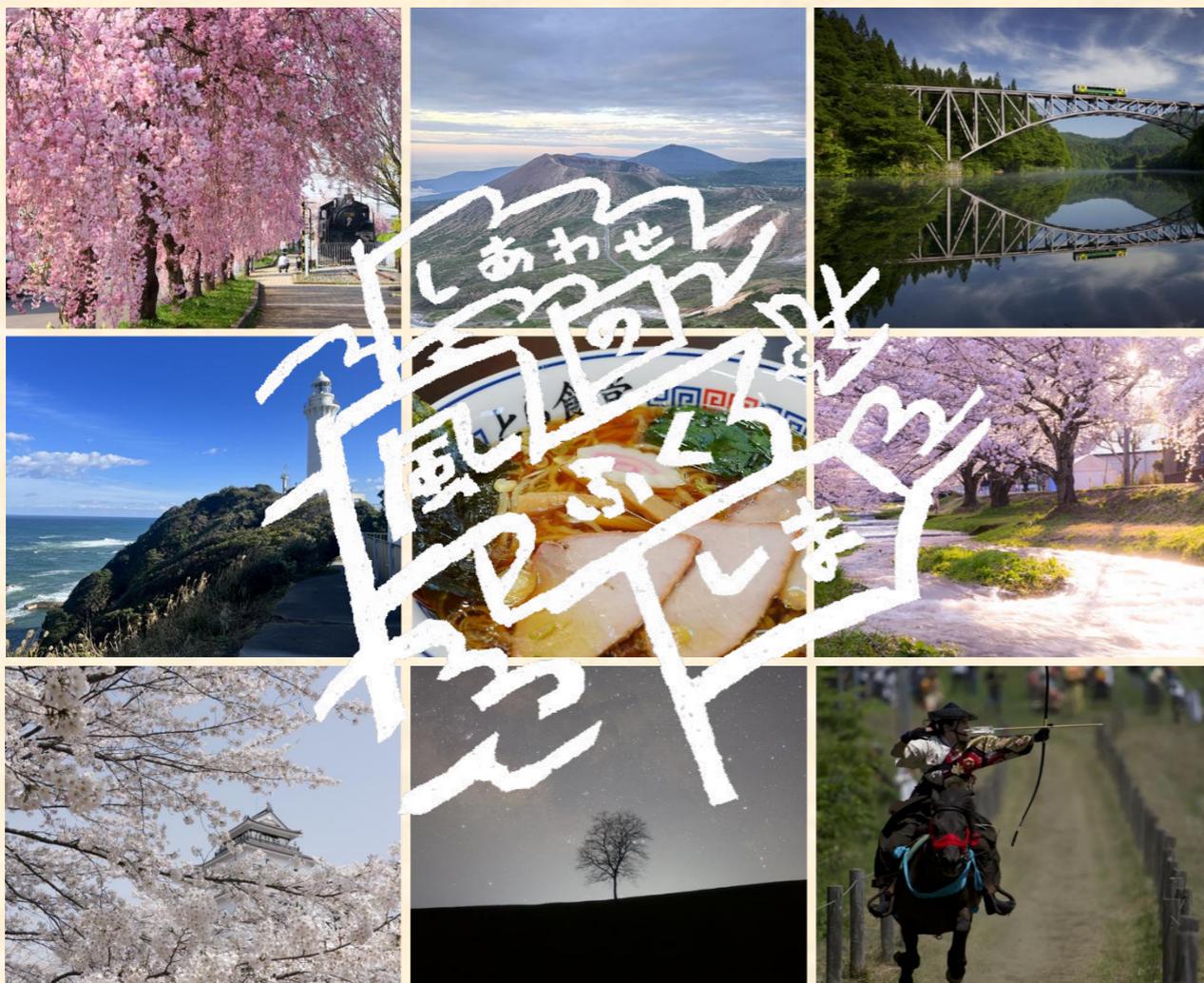
「ふくしまデスティネーションキャンペーン」の開催

<ふくしまDC 特設サイト>

<https://www.fukushima-dc-cp.jp/>



2026年4月～6月にJRグループと県・市町村・地元の観光事業者などが一体となって、各地域の魅力を発信する**大型観光キャンペーン**を開催します。
期間中は**様々な特別企画**をご用意し、福島全体で観光客の皆様をおもてなしいたします！



<主な特別企画>

官民300超の特別企画で「**しあわせの風**」を感じてください

●県企画特別列車

県民も観光客も笑って、学んで、感動できる特別な臨時列車を運行

4月「よしもと芸人おもてなしSATONO」号

5月「ふくしま復興 hopeful な旅」号

6月「只見線 霧幻SATONO」号

●「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」ナイトミュージアムツアー

DC期間中の4月4日(土)と4月24日(金)の2日間限定で、

限られた人数でゆったりと鑑賞できる

特別なナイトミュージアムツアーを開催

(首都圏発着、県内発着など複数ツアーを準備)

●その他の期間中の県内大型イベント

2月21日(土)～5月10日(金) 大ゴッホ展 夜のカフェテラス

4月11日(土)～6月14日(日) ポケモン天文台

6月6日(土)～6月7日(日) ふくしまの酒・味噌醤油まつり

「しあわせの風 ふくしま」

たくさんの旗が心地良い風に力強くたなびいて、ふくしまを訪れるみなさまをお迎えします。

来訪を心待ちにしていた歓迎の旗。誇りに満ちた宝の在処を示す旗。復興に向かう船が掲げる大漁旗。

そして、笑顔で振り返りてくださる旅人の旗。

ふくしまの旅で出会い、感じ合う、しあわせの風。

ひとりひとりにふくその風を、あたたかく多彩な旗をモチーフに、流れる雲と鳥のさえざりとともに表現しています。



「福島イノベーション・コースト構想」の推進

<福島イノベーション・コースト構想推進機構 公式サイト>
<https://www.fipo.or.jp/>



東日本大震災・原子力災害により失われた浜通り地域等の産業を回復するため、**国家プロジェクト**である「福島イノベーション・コースト構想」を進めています。新産業集積を担う人材を育成し、経済効果を県全体に波及させ、世界に誇れる福島の復興・再生の実現を目指しています。また、2023年4月には、本構想を更に発展させる拠点として、福島国際研究教育機構（F-REI、エフレイ）が設立されました。

福島イノベーション・コースト構想

「航空宇宙」分野では、実績や技術を有する企業が地域に多数立地し、次世代航空モビリティやロケットの開発に挑戦しています。



航空宇宙関連企業の立地事例

福島国際研究教育機構（F-REI）

福島に優位性がある「ロボット」など5つの分野で研究し、その成果を新産業の創出に結びつけ、県内外に広く効果を波及させます。



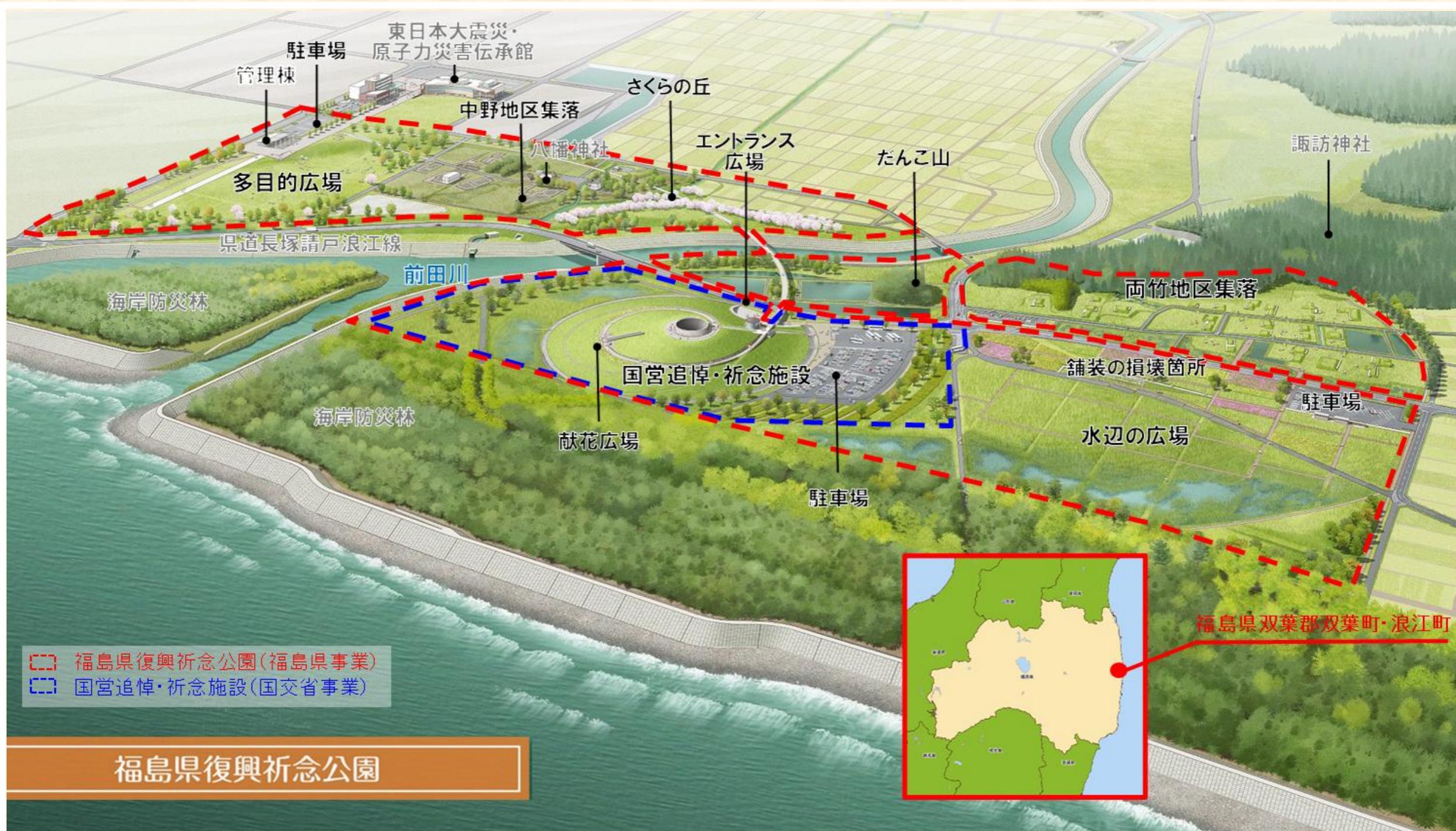
F-REIの完成予想図

（復興庁提供資料：第4回新産業創出等研究開発業議会【資料4】を加工
日建設計・日本設計・パシフィックコンサルタンツ設計共同体提供
※設備イメージであり今後の設計で変更となる可能性がある

3 ふくしまのこれから

「福島県復興祈念公園」の開園

2026年4月25日、双葉郡双葉町と浪江町の両町にまたがるエリアに福島県復興祈念公園が開園します。東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂をはじめ、震災の記憶と教訓を後世へ伝承するとともに、国内外に向けた復興に対する強い意志を発信します。



公園全体イメージパース

復興のシンボル「Jヴィレッジ」

<Jヴィレッジ 公式サイト>
<https://j-village.jp/>



- ▶福島第一原発事故収束の拠点となっていたサッカーナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ（所在地：楡葉町、広野町）」は、本県復興のシンボルとして2019年4月に**全面再開**され、**東京2020オリンピック聖火リレーのグランドスタート**や、2024年から本県固定開催となった**インターハイ男子サッカー競技**などで活用されています。
- ▶2025年11月には**東京2025デフリンピックのサッカー競技**が開催されました。期間中、約16,000人が来場した会場では、県内の伝承施設や魅力を伝えるブースを設置するとともに、東日本大震災・原子力災害伝承館への無料シャトルバスを運行し、本県の復興の姿を発信しました。
- ▶近年は、ホテルや会議室など幅広い用途で利用できる施設の強みがかされ、サッカーをはじめとしたスポーツのほか、**教育旅行や企業・団体の研修等での利用**も多くなっています。



Jヴィレッジ全景
(出典：JヴィレッジHP)



東京2020オリンピック聖火リレー
グランドスタート



インターハイ男子サッカー競技決勝



日本代表 男子（銀メダル獲得）



日本代表 女子（銀メダル獲得）



サインエール（手話の動きを交えた応援）

総合計画の概要

(1) みんなで創り上げるふくしまの将来の姿

- 総合計画は2022年度～2030年度までの県づくりの指針や施策を示す**県政の羅針盤**です。
- ふくしまの30年先の未来について、県民の皆さんや福島に思いを寄せる方それぞれが思い描きつつ、10年程度先のふくしまの将来の姿（未来予想図）を**オールふくしま**で創り上げます。
- 未曾有の複合災害※からの復興、急激な人口減少への対応という前例のない課題を克服しようとする本県の取組は、SDGsが目指す「誰一人取り残さない多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現」と方向性が一致しています。

※複合災害＝地震・津波・原子力災害、さらには風評被害といった色々な災害が重なり合った災害。

福島県を取り巻く現状と課題

- ①復興・再生の現状と課題
- ②地方創生の現状と課題
- ③横断的に対応すべき課題
(自然災害、新型コロナウイルス感染症、地球温暖化対策 など)

基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる
ふくしまを共に創り、つなぐ

県民の皆さんの意見

本計画の策定に当たっては、多くの県民の方々に参加していただき、問題意識の共有を図りました。福島県総合計画審議会での議論、市町村との意見交換、県内各地で開催したワークショップや地域懇談会等を通じ、県民の皆さんから「ふくしまの将来の姿」についてたくさんの意見を頂きました。

- ①総合計画審議会
- ②地域懇談会
- ③市町村との意見交換
- ④対話型ワークショップ(小中学生・高校生・大学生)
- ⑤アンケート など

【目標に向かうために揺らいではならない前提】

この基本目標の達成に向けた様々な取組を進める上で、原子力災害による長期にわたる廃炉作業や環境回復の取組、避難指示の解除や解除後の生活・生業の再生、生活インフラの再生、産業の再生、さらには風評の問題や関心の低下による風化の問題などが着実に解決されていくことが大前提です。この前提がひとたび揺らぐと、本計画が描く将来の姿が根底から崩れる可能性があることから、引き続き、国、東京電力の責任ある対応を求めつつ、国・県・市町村が一体となって復興を進め、かけがえのないふるさとを取り戻す必要があります。

県づくりの理念

- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会（県）づくり (寛容、認め合い、つながり) : **やさしさ**
- 変化や危機にしなやかで強靱な地域社会（県）づくり (回復力、強靱さ、健全さ) : **すこやかさ**
- 魅力を見いだし育み伸ばす地域社会（県）づくり (美しさ、あたたかさ、魅力・強み) : **おいしさ**



総合計画に描いた「将来の姿」のイメージイラストのコンセプト

県土から伸びる木の幹から分かれる枝葉
 (=ひと、暮らし、しごと)がそれぞれ大きく育ち、
 重なり合う部分(=調和)が色濃く育っています。
 木は県土に深く根を張り(=深化)、
 幹と枝葉を大きくし(=進化)、
 日々新たな枝葉が芽生えています(=新化)。

「ひと」「暮らし」「しごと」の達成状況を
279個の指標によって毎年度把握・分析し、
 次年度の改善に活かしています。

県民の皆さんから頂いた「ふくしまの将来の姿」についての意見を
 県づくりの理念に沿って見ると、大きく次の3つに集約できます。

「誰もが活躍できる」
 「ひとりぼっちにしない」
 「人とのつながり・支え合い」
 などの

“ひとを大切にする”

= **ひと**

「医療・福祉が充実」
 「災害や犯罪が少ない」
 「子どもが育てやすい」
 「自然豊か」などの

“安心・快適に暮らせる”

= **暮らし**

「産業や観光が盛んである」
 「雇用の受け皿がある」
 「一次産業の活性化」
 などの

“働きたい場所(仕事)がある”

= **しごと**

この「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの側面は、相互に関連性があり、相乗効果がある場合もあれば、
 相反する関係にある場合もあります。

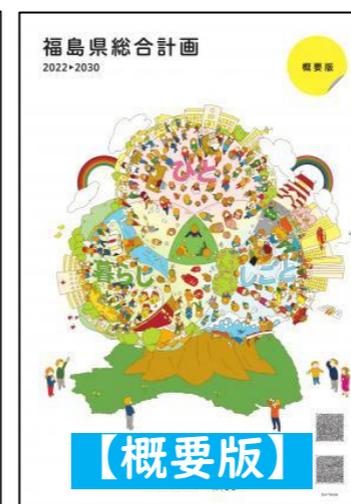
大事なのはバランス(調和)を取りながらこの3つを伸ばしていくことです。

これらを総じて、「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」を、次のとおり決めました。

ひと **暮らし** **しごと** が

“調和しながらシンカ(深化、進化、新化)する豊かな社会”

詳しい取組などは総合計画でご確認ください！



二次元コード



(2) SDGs視点の将来の姿



他の地域よりも複雑な課題を抱える福島県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めながら、普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため、SDGsの17の目標ごとの視点で描きます。

10 人や国の不平等をなくそう

●年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている など

4 質の高い教育をみんなに

●知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている
●震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる
●生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている など

5 ジェンダー平等を実現しよう

●地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている
●あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている など

3 すべての人に健康と福祉を

●若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている
●安心して妊娠・出産に臨むことができる環境が整備されている
●安心して必要な医療を受けられる体制が充実し、医療の質も向上している
●高齢者や障がい者など利用者の意向を十分に尊重した良質かつ適切な介護・福祉サービスが充実している
●各種感染症に迅速かつ的確に対応できる体制が整っている など

11 住み続けられるまちづくりを

●各種都市機能の中心市街地への集積など歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進んでいる
●本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものとなっている
●避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる
●過疎・中山間地域においても、医療や生活交通などの生活基盤が安定的に確保されている など

1 貧困をなくそう

●誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを受用できる環境が整っている など

15 陸の豊かさも守ろう

●豊かな自然環境が保全されている
●希少な動植物の保護など生物多様性が保全されている など

16 平和と公正をすべての人に

●安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる など

暮らし

しごと

2 飢餓をゼロに

●産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している など

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

●再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている
●水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている など

14 海の豊かさを守ろう

●水産資源を安定的に利用できる仕組みが確立され、活力ある水産業が営まれている など

17 パートナーシップで目標を達成しよう

●住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民主役のまちづくりが行われている
●市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている など

8 働きがいも経済成長も

●本県経済の中核を担う県内の中小企業などが主役となった力強い地域産業が成長・発展している
●福島イノベーション・コースト構想の進展などにより地域外からの人材が選流・定着している
●農林漁業者が他産業並の所得を安定的に確保している
●県内観光地の魅力が高まり、インバウンドを含めた観光や教育旅行など地域を訪れる交流人口等が増加している
●若者、女性、高齢者など誰もが安心して働ける雇用環境が整備されている など

13 気候変動に具体的な対策を

●災害に強いライフラインやインフラの整備が進んでいる
●防災に関する意識が高まり、自助・共助・公助による災害の備えが進んでいる
●地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる など

6 安全な水とトイレを世界中に

●猪苗代湖を始めとする水環境が保全されている など

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

●県産品・観光の魅力や正確な情報の発信により産地評価の回復、競争力の強化が進んでいる
●福島イノベーション・コースト構想が進展し、地域企業の活力向上と新産業の集積・育成が進んでいる
●利便性が高い道路ネットワークが確保されるとともに、条件不利地域でも携帯電話等が利用できる
●福島空港、相馬港や小名浜港は、物流拠点・交流拠点として地域経済の活性化に寄与している など

12 つくる責任 つかう責任

●GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている
●ごみの減量化やリサイクルなど環境に配慮したライフスタイルが定着している など

18 複合災害からの福島の復興

●県民の皆様や福島県に思いを寄せてくださる多くの皆様と連携し、複合災害からの復興を成し遂げている など

福島県ではSDGsの18番目のオリジナルの目標を2022年6月に設定しました



(3) 計画の推進に向けて

計画を着実に推進するため、PDCAマネジメントサイクルを確実に実行し、事業効果の適切な評価を行い、具体的な**成果の創出と見える化**を進めています。

その際、**根拠に基づく政策立案 (EBPM)** の考え方を重視し、本県が保有する統計情報など様々なデータを積極的に活用しながら、指標の達成状況等の分析を進め、実効性の高い事業の企画立案につなげています。

また、機動的かつ効果的な第三者評価を実施するため、**福島県総合計画審議会**において施策の点検・評価を行うほか、県内各地域で**県民との意見交換の場**を設定するなど、地域の声を計画の進行管理に活用しています。



県内7方部で開催する
地域懇談会（毎年6月頃）



総合計画審議会での
第三者評価（毎年8月頃）



総合計画審議会会長から
知事に進行管理に関する
意見書の手交（毎年9月頃）

終わりに

- 本県を取り巻く「最新の現状・課題」、「福島ならではの取組や魅力」などを県民の皆さんや福島に思いを寄せてくださる皆さんと共有し、共に県づくりを進めていくために本レポートを初めて作成しました。
- 本レポートをご覧いただき「ふくしまにはこんなに良いもの、すごいものがあったんだな」と再認識いただくきっかけとなれば幸いです。
- 本報告書に記載できなかった内容が、総合計画（本編）にはたくさん盛り込まれています。ぜひ一度、総合計画をご覧いただき、県民の皆様と一緒に考えて作り上げた2030年の将来の姿や施策の方向性をご確認ください。
- 職員による総合計画の出前講座も開催していますので、ぜひご利用ください。

総合計画の特設ページ



出前講座のお申込みサイト



【年次報告書の対象期間】 2024年度（2024年4月～2025年3月）の指標の実績や、2025年度に実施した取組などを対象としています。

【報告書の発行時期】 2026年3月

各種ポータルサイト

福島県の魅力や最新情報を各種ポータルサイト等で発信していますので、ぜひご覧ください！

ふくしま復興情報ポータルサイト

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま



ふくしま復興情報ポータルサイト

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

たくさんの方々に本県の現状を知っていただくため、「ふくしまの復興の今」を発信しています。

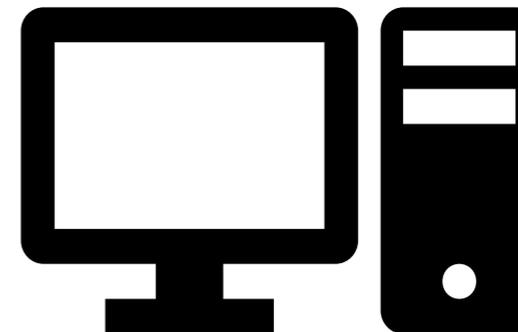


東日本大震災・原子力災害
10年の記録

東日本大震災・原子力災害 10年の記録

<https://fukushima-10years-archives.jp/>

復興のあゆみとふくしまの今を広く発信するとともに、震災の記録と記憶や県民の思いを継承するため、記録誌を発行しています。



もっと知ってふくしま!

「もっと知って ふくしま！」

<https://mottoshitte.jp/>

福島の魅力をもっと知ってもらうために、6秒にギュッと詰め込んだ動画を制作しました。第1弾の25本に続き、第2弾は、福島県59市町村すべての魅力を1本ずつ、全部で59本の6秒動画を公開しています。



～ 福島の今を知る動画スペシャルサイト～



FUKUSHIMA NOW

～ふくしまの今を知る動画スペシャルサイト～

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/movie-now/>

ふくしまの今を伝えるため、制作した動画を探しやすくまとめています。



「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」

<https://jitsugensuru-fukushima.jp/>

震災から10年を機に、県は、「ふくしまから はじめよう。」からのバトンを渡す、新スローガンを策定しました。



《発行元》

福島県 企画調整部 復興・総合計画課

Fukushima Prefectural Government

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

TEL 024-521-7109

MAIL sougoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp

*本誌へのご意見等がございましたら、上記アドレスへお寄せください。